「新しい小布施町立図書館」基本構想案 第２回 意見交換会 会議録

日　時　　平成 19 年 8 月 22 日(水)　19：35～21：50
場　所　　公民館講堂
出席者　　参加者 34 名（町内 30 名、町外 1 名、職員 3 名）
　　関係者 11 名（市村町長、市川教育長、冨岡参事、池田推進幹、江本主査
　　図書館プロジェクト 6 名）

議事録
１．開会
２．町長あいさつ
３．第１回 意見交換会質問に対しての回答

（事務局）　前回では沢山のご意見を頂きました。その中で、始めに補足をさせて頂きます。まずは、人員の配置について、それから館長の公募について、小中学校の図書館司書について、それから、プロポーザルについての説明、それから建設スケジュールについて関わって補足させて頂きます。

（事務局）　人員配置については現教育委員会の職員との兼務等によりまして、図書館と一体的な運営を考えております。館長を、中心として幅広い生涯学習を支援するために、司書それから、専任の職員の確保は必要なものと考えております。それから、運営のサポートをという事で、ボランティア育成等も充実をさせて参りたい、それによって組織化等の方法も考え、配置については、今後考えて参りたいと思っています。

館長の関係ですけども、広く人材を求めて参りたいというふうに考えております。もちろん図書館サービスの専門的知識、経験はもとより、それと同時に情報等についての知識も豊富に持っておられる方、何よりも図書館の運営に積極的に取り組む、意欲・熱意のある方になっていただきたいと考えます。前回、公募に付きましては、小布施のこの実情や今までの経緯というものの理解が大切で、全国からの公募でなくてもよいのではないか、と言うご意見を頂きましたが、公募に付きましては、早急に決めて参りたいと考えておりますので、ご意見をお聞かせ頂きたいと考えています。

それから、小中学校の方との連携については、資料の共有それから図書館司書同士の連携あるいは研修。それから運営の面の連携を強化したいと考えております。

（事務局）　前回、この横文字のプロポーザルという言葉が分からないというお話がございました。プロポーザル方式につきましては、設計業務にもっとも適した、想像力、技術力、経験などを持つ設計者を選ぶ方式でございます。技術力や経験、

設計業務に望む考えなどを含めた提案書を提出していただきまして、設計者を選ぶ方式でございます。なお前回、理科大の先生から期間について、プロポーザルとコンペの融合方式では難しいのではないかと意見をいただきましたので、いろいろ検討した結果、プロポーザル方式に簡単な立面図、平面図を付け、それによって審査員に選定を頂くという形で進めていきたいと思います。

4　第２回　意見交換会

（事務局）　初めての方もおられますが、今回のこの新しい図書館については、計画段階から住民の皆様にご参加頂くということ、そして、運営の方法や中身について、あるいは事業内容についても、多くの皆さんに加わっていただき、幅広いご意見をお聞きして造り上げて行きたいということから、この意見交換会が持たれています。まず始めに、学びと子育ての場ということで、今日は焦点を絞ってお話したいと思います。また進め方についても何かご意見がありましたらお願いします。

（参加者）　今、私はこういう組織が動いているということを今日初めて知ったような気がします。まず、各コミュニティで図書館を造っていきたいというような話がありました。その中で１万２千の人口で１日７人しか図書館の利用者がないという様な中で図書館を本当に造る必要があるのかどうかと、まあ町民の大方の人はそういうふうに思っています。殆どの人がこの小さな町に何で図書館だって言われている訳です。そういう中で、なぜ図書館は必要なんだという大前提、定義がないと納得できないと思います。ここまで立ち上げていく段階で一度、町民にフィードバックする必要があると思います。それから建設していく中で場所の設定も小学校の近くというようなことも、各小学校、中学校には図書館があるのにどうかと思います。将来を考えるのであれば土地の取得から、良い場所を確保するような段階も考えられると思います。

また１万２千人の町に、５万冊の蔵書を用意すると、一日７人しか見ない図書館に、５万冊を５年間でその本はもう償却するという。５年ごとに５万冊の本を買っていくということは、非常なコストになります。実際、今本を読む人は電子図書、要するにインターネットで図書の中身は見ることが出来ます。

また秋田県にある小布施町と同じぐらいの規模だと思うのですが、図書館を造りたいけどお金がないから日本出版社協会にお願いしたところ、本屋さんを町営でやればという話もあり利益も出ているようなことを聞いています。

なので、やり方が色々あるんだけど、いろいろなことを経過を踏まえてこういうふうになってきたという、段取りのこの道筋を町民に知らしめていかないと、上から押さえつけのようにとられてしまう、というようなことが一番心配されます。

（参加者）　質問から入りたいと思いますが、各地区で説明会というか、意見を聞く会をやったわけですが、それとの関連はこの会はどういうふうになっているのでしょうか。今までのお話しの中に出ているのですか。

（参加者）　みんな関連しているので、一つにしてお話していただいた方がいいんじゃないかな。

今、お話しがあった地区の説明会から私もずっと出ていて、いろいろ話してます。当初の地区の説明会においては、やはり私はその時、考え方としては、早急にやる必要はないのではないかと言う考えをお話ししたと思います。

しかし今、やはりここで今非常に不思議に思うのは、図書館の建設するということは決まったことなのですよね。だから、そこのところの経緯をきちんとお話しして頂かないと、お互いに話が進んでいかないと思います。その上で、どのような形で造っていくかというお話しをこの間からしているのではなかろうかと思っているのですがどうなのでしょうか。

そういう所を、はっきりさせて頂かないと。町民は１万２千人と言いますが、来ない人は来ない。町報にはあれだけ出て、だから私はここにきましたが、そういう経緯や、その辺の判断の仕方というのも、ご説明頂いたほうが良いと思います。

それから細かいことですが一日７人と言うのは、私それは、それなりに利用している方だと思いますけれど、まず７人と言うことはないと思います。

それは後のことですから、会場で大前提をお話し頂ければと思います。

（事務局）　現場で毎日、大勢の方に対応している職員から、その辺の現状については、後程お話しさせて頂きます。

この図書館建設については、財政状況の中で、建設にまで至らなかったという経過が、今までの資料等でも配布されております。確かに地域に出た折には、いろんな方から、ご意見として賛成も反対もいただきました。しかし検討の結果、町の皆さんの願いであるバリアフリーの１階に移った、入りやすい図書館を造ろうと、また基金を組み立ててきて、財政面でも何とかできるという所まできています。では、折角造るなら、これから十年、二十年、先の発展した図書館、今までのただ本があるだけの図書館じゃなくて、もっといろんな情報発信、それから交流が出来る、皆が憩える、そんな思いが検討会の中で提言されておりますので、それを実現に向けて、町民の皆さんと共同で作り上げていこうという立場におります。

また、公平に、大勢の皆さんに情報が伝わるシステムとして、この図書館の機能というものを考えていきたいと…。

（参加者）　図書館を造るというのは経緯があって決まっていて、皆さんそこから、どう造ろうか、どうゆう形のものにしていこうか、今それを話している会なのでは

ないかと聞いているのです。だからこういうふうに進めてきたという経過をお話し頂ければと思いました。

（事務局）　図書館の建設につきましては、現在、図書館があります。その図書館が平成３年の３月に、第３次総合計画の中で図書館移転・新築についての計画が出されました。これにいては、３階のためお年寄りの皆さんや障害者の皆さんに使いにくいという関係で出ています。その後平成８年の３月には、同じく総合計画の後期基本計画の中でも、同じことが出てきています。そして平成 10 年には図書館施設建設検討委員会というものが立ち上げられまして、それぞれ意見を出していただきまして移転・新設という要望が出て、平成 13 年５月には第４次小布施町総合計画が立てられまして、その中でも図書館改築に当たっては、ネットワーク化なりそういうものを進めるべきだという意見が出ていました。その後平成 13 年７月から平成 15 年９月にかけては、図書館づくりの会ということで、図書建設及び運営に関する提案書をまとめていただきまして、町の方へ提案書を出していただいています。なお 18 年３月には、先ほどございます後期基本計画の中でも移転と出ています。が、今までこれだけ移転という意見が出てきた中で、町の財政状況もあり、優先順位からいうと幼稚園の方が先、幼児たちの耐震補強なりそういう安全性の問題からということで、先送りにされてきました。ここでようやく目途がつき、図書館の移転ということでご意見頂いているところです。なお 18 年の６月から 19 年２月にかけましては、皆さんのお手元に差し上げてございます図書館のあり方検討会で、ご検討頂きましてこれも報告書を出していただきました。図書館の移転ということでは、今まで詰めてきているところです。経緯については以上です。

（参加者）　今の説明はわかりますが、どうして必要になったかという経緯をもっと具体的に出さないと、頭から決めてきたという格好になってしまうことを心配しています。私は、反対しているということを言ってる訳ではないけれども、一つ一つ町民全体の意見を統一させるという手法が全然とられてきていないことが問題で、ある一部の人の意見だけで固められていると言われている。やっぱりいろいろ反対している人も大勢いると思うので、どうして必要なのか、コミュニティでの説明では利用が少ないということでしたし、町では図書館の職員から頼まれて本を借りてきて、毎日枕にしている人もいるって言われています。そういう、話がたくさん出ているのだから、どうしても定義、小布施町の１万２千人の人口の中でこれを造っていくということを、皆に納得させる定義っていうものが必要だと思います。

（参加者）　今の方の言われることよく分かるのですけども、理解の仕方が随分違うと思います。経緯は十年、二十年かけて皆さんで話あってきて、それでこの１年間かなり集中して審議をして、今は本当に町の皆さんからアイデアをいただいて、

どういう形のソフト、ハードにするかという段階の意見交換なのだと思います。

今までそんな話を全然聞いたことがないとか、初めて聞いたとか、図書館に対しての悪口とか、沢山言いたいことがある方はいるとは思いますが、今は町民から不満を聞いている会議の段階ではなくて、今までの経過があって図書館を建設することになったが、その図書館の新しい概念に、子育てもあり、情報発信もあり、交流の場でもありという、今後の図書館のあり方の変化をかなりの人が理解した上で、小布施の図書館どうしようかと言う話になっています。

今は、かなり最終段階に入っていて皆さんの理念をどういうハードにしようかというところですが、もちろん皆さんの意見を聞くのも大切なのですけれども、前回の意見交換会でも出たように叩き台というものが必要になると思うんです。叩き台は、ただ意見を出しても出来ないので、４・５人または５・６人位の人が手を上げていただいて、その人たちにブレーンストーミングして知恵を出しあっていただき、次回の意見交換会の時にまとめた意見を皆さんに提案されたらどうでしょうか。

その提案に基づいて、じゃあ建物はこういうものがいいんじゃないかとか、機能はこういうものが良いんじゃないかとか、そうゆう意見を積み重ねながら、ハードの方へ移していく段階ではないかと私は思っています。

こういう所のいろいろな意見もとても大切なんですけれども、実際そういう具体案を出すためには、やはり５・６人位に絞って話し合いをしてまとめてからの方が良いと思います。ですから、今日の会議で５・６人位に絞った段階の人選が出来れば、今日の会議の一つの目標になるかと私は考えております。

（参加者）　大方の意見だと思いますが、今回の建設の話は、町民とはまったくかけ離れていると思います。図書館の話は、各コミュニティに説明した時に、初めて町民は知ったはずです。十年、二十年という経過は、一部の図書館の担当者がしてきたことに過ぎないですし、その時点で、いろいろ出た問題点に対するフィードバックがなかった。だから自分たちは造るというだけで、必要になった経過を皆は知らないでいる。ですから、その経過を皆に知らしめるために、前文にいれてくださいと言っています。

（参加者）　前文にいれることは良いことだと思いますけれど、この件については、かなり年月をかけて…。

（参加者）　年月をかけてといっても、一般町民に出てきているのは今年の春からです。長い経過は、一部の人たちのやってきた活動の問題で、皆に知らしめた時点からどういう行動をとってきたかということが大切になると思います。私は図書館を造るということにまったく反対してないです。してないけれども、このままいけば、知らないうちに勝手に図書館ができたということになります。

（参加者）　と言う意見もあると思います。あると思いますけども、必ずしもそうではない

と私は思っております。

（参加者）　町としてはそういう説明をしないで、突破していく、強硬手段で進めていくということですか。

（参加者）　今までの経過で説明の努力を十分したというのが、行政の考え方で、私はそうしてきたと思っていますし、何人の方も思っています。あり方検討会の委員さんを始め、かなり集中して話し合いをされてきています。

（事務局）　補足説明させていただきますが、先ほど総合計画でのご検討の関係につきましては、これはそれぞれの時々に、住民の皆さんに参加して頂いて、検討を頂いております。なお、昨年の 11 月から 12 月の町政懇談会の関係ですが、今年の２月の町報へ状況を掲載し、３月には図書館のあり方検討会の報告内容についても掲載、また７月には図書館基本構想案の掲載、８月号で意見交換会の開催ということで、それぞれ住民の皆様にお知らせをしながら、今まで進めてきた所でございます。また、先ほど参加者の方からお話があった通り 10 年来の懸案で、その度に皆さんにはお知らせしてきた所です。

（事務局）　ちょっとよろしいですか。なぜ図書館が必要かということの説明がまだ行き渡ってないというご意見を頂きました。それについては情報の伝え方というのは、町でも非常に難しい課題になっています。

例えば、総合計画については、一冊の本として全戸配布で住民にお渡しし、一昨年から「ここに使います今年の予算」というものも全戸配布いたしました。それから町報についても毎月お届けして、図書館のことも載っています。それから町政懇談会を各コミュニティで開催しました。しかしこれでも、１万２千人の方には伝わらないのだよという意見だと思います。

この事業は、公共事業の道路とかそういうものは、まだ整備などいろいろありますが、いわゆる建物としては多分、小布施にとって最後の建物になるだろうと思っています。それを建築していくために、１万２千人という皆さんに、私たちは、かなりいろいろな方向から、ご案内をしているつもりなんですけども、しかし、まだ今年の４月に初めて知った人も多いし、まだまだ知らない人もいる。そういう所で決めていいのかというご意見なのですが、逆にちょっとお聞きしたいのですが、どういう方法で、１万２千人の町民の皆さんに、ご案内していったら良いか、また、それについてのフィードバックの方法をどういう形でとらせていただいたら良いかと、それについてのお考えを聞かせていただけますか。

（参加者）　現状の図書館が非常に利用されていないという中で、建設されるのだから、如何に町民が新しい図書館を利用してくれるかということ、どういう方法で皆を呼び込むかそういうことだと思います。

（参加者）　話の途中で申し訳ないんですが、図書館の利用数は７人とかね…。

（参加者）　それは町からの、説明です。

（参加者）　それが、きっとそこで説明される方が間違えられたのか、ちょっと現場にいなかったので状況は分からないですが、今の実際の利用状況はどうなのか、そういったものも先に説明頂きたいと思います。

（事務局）　それは先ほどから、ご質問がありますので、このことを進めることによっての目標などを…ここに現場の司書がおりますので説明を…。

（参加者）　だから数字の対処とかはいいです。しかし利用のない中で進めるのなら、利用者をより多く集めるということと、図書館だけじゃなくて、いろんな多面の情報発信基地になるような形にしていかないと、折角造っても無駄になるわけです。コンピュータは個人が家でやれば良いということではなく、図書館の中にそういうシステムを置いて指導すれば、幾らでも世界中の情報をネットワークで取れて、自動的に翻訳して見て学べるわけですよ。それも構想案に入ってる、なら実際に誰がやる。そういうことを文章化してほしいと思います。

（事務局）　ちょっとお待ちくださいね、あの今の方は、最初から何度もお話ししているように、図書館の建設について反対をしている人がいる、個人的に私は反対しているわけではないと何回かお断りになっていらっしゃる。

ここにお見えになっている方は、本当に反対の人は来ていないが、反対の声も多いんだよ、もし反対の理由を問えば、こういうことだろうということを、反対される方の身になって代りに言って頂いているというふうに私は理解したのですが、そうすると方法として、どういうことが望ましいのかということをもう一度、今またお聞きしたい。

（参加者）　そういう人にも納得して貰えるように情報を流して…。

（事務局）　納得して貰えるように情報を流すとして、例えば町報や、同報無線、あるいはホームページに載せてもなかなか伝わらないのが、実情なのですよね。では、その時にどういう方法でやるか、もしかしたら、極端な話ですがアンケート取って賛成か反対かやるのか、というようなことなのか。何処まで、ドラマチックにやるべきなのかとか。今の意見については、反対の人がいるのだったら、こういう意見を言うということだと受け止めさせて頂きます。その前に、図書館の担当から、今の現状を説明させます。

（事務局）　図書館の利用状況について説明させて頂きます。今まで冊数しか出ませんでしたが、去年から人数を窓口でカウントしてみました。平均で 1 日 80 人の来館者を迎えております。平均ですので、多い日は 200 人を超えることもあり、少ないときは 30 人～40 人の時もありますが、毎日さまざまな方がみえて使って頂いています。本の貸し出しについては、基本的な指標となっておりますので、1 日平均、120～130 冊となっています。10 年前までは 80 冊位でした。そこから年々増えております。その他に、調査相談とか、こう云う本を探して欲しい、

こんなことを調べたいので本を探して欲しいと、要望に答える仕事があるのですが、10 年位前はそれほど多くはありませんでしたが、現在は、18 年度統計ですが、1,000 件を超えています。10 年位前から増えて、ご利用いただいております。

施設的には、利用して下さっている方も年々お年を召されまして、階段を登るのが非常にキツイという状態や声は毎日窓口で見聞きしておりますし、ブックスタートを始めてからは、小さな子どもをつれたお母さん方が、子どもを抱えて階段を上がってくるのが非常に辛い、大変、というのはここ２・３年非常に目に付く感じがあります。

（参加者）　聞いた説明とまったく違います。

（事務局）　では、時間もおしてきていますので、意見交換を始めさせていただきます。

（参加者）　先程、ここには反対している人は来ていないといわれたので、私は反対しているので帰ります。

（参加者）　それぞれの立場でものを言っているということで、私とすれば、横にそれてしまったので、いろいろ検討した結果のこれまでの議案で意見交換を始めていただきたいと思います。さもないと、これだけ大勢こられても無駄になってしまうと思います。

（事務局）　前向きに進めていきたいと思いますので、よろしくお願いします。先程も申しましたように皆さんで一緒に作り上げていくというところで、多数関わっていただきたいと思います。

（参加者）　私もどこのところから意見を言うのに入っていけばいいか、いろいろな意見が出て、すごく迷って手をあげたのですが、意見交換会は、反対意見もここで出て良いと思います。この中の雰囲気がそういうものを、押し出すような雰囲気にしてはいけないと思います。じゃないと、良い図書館にできないと思うので、そういう反対の人も、よし、これなら納得できるっていうような説明をしていかなくてはいけないと思うので、是非、今出ていかれた方は、残ってもらいたいと思いました。私は初めて来たので、どこから自分がここへ入っていけばいいか迷いました。造る前提で意見に入っていけばいいのか、逆戻りもあるのか。どこの部分から入っていけば良いのかという説明が最初になかったもので、非常に困りました。

意見交換会なので十分に、反対意見も大事にしながらやっていかないといけないと思います。

（事務局）　いろんな意見を交えながら図書館がこれから造られていくということですので、お願い致します。皆さんのお手元に届いているこの「新しい小布施町立図書館の基本構想案」、５ページ「学びの場」、６ページ「子育ての場」、という、４つの柱で、４つの場は交錯したり、重なる部分があるとは思いますが、とり

あえず「学び」と「子育て」の場ということで意見交換を進めたいと思います。

（参加者）　前回も触れましが、一つ一つの場は、あるときには主になったり、あるときには従になったり、またあるときは片方が主になったり、あるときは片方が従になったり、そういうような関係であるものではないかと思います。一つ一つ切り離して考えて、意見を言い合うというのは難しいです。やっぱり基本に含めて考えていかないといけない性質のものだと思います。

図書館の機能の充実ということは、階段のある問題とかね、あえて優先順位を私的につけるならば、司書の関係とか人の配置、人のことが一番心配なのです。なので、そういうことを考えるときに２番目の子育ての場を中心に考えていけば良いと思います。

私は子どもの成長に合わせた場を提供できるような機能が、本を通じてでも、視聴覚を通じてでも良いのですが、図書館の中にあると良いと思います。教育の場ではある意味制限があると思いますで、図書館で社会の繋がりとか、経験、先人の考え方などを吸収する機会を得て、本を読むことに繋がるのではないかと思っています。ですから、１学びの場、２子育ての場のことを、中心に進めて、３交流の場、４情報発信の場は、共通項があれば取り入れていく考えの方がいいのではないかと思っています。

（参加者）　ほかになければ…私は図書館へたまにしか行かないんですが、そのとき大部分は親子で来ている人達、あるいは子どもだけで来ている人、そのような感じを持っています。ここでは子育ての場というふうにありますが、私はこういうことで図書館を検討するのは賛成できません。子育ての場とするなら、別個に、子ども図書館というようなものに、名前を変えて、そういう趣旨で、それぞれ専門の本を置き、子どもが読める本とか、専門の館長を置くなどしたほうが良いと考えています。その方が考えようによっては、小規模で済みます。そういう考えでは、多分いけないのかも知れないと、そんな考えも持ちます。

私はここで総合的なこと言いたいのですが、小布施らしさということを強調しますが、私そんな必要はないと思います。皆が同じという時代に、小布施、小布施と、一番大きくて、一番立派な図書館を造る必要はないというのが私の考え方です。普通の図書館、あるいは普通の子ども図書館が町にあれば良い。特別な方方から見学者が来るような図書館は必要ないと、非常に強く感じました。よそから押すな押すなで見学が来る、そういう図書館にする必要はないという考えです。

それから、蔵書数等についても、私が借りたい本は大抵図書館にはないのですが、県立図書館や全国の図書館と通じていて、よそから借りた本も私たちの手に入って利用できる。そういう中では、何万冊も揃えるなんて必要全然ないと思います。

それから、先ほど参加者からのお話で、５万冊買って、それから何年か経って、５年位で処分してしまうなんてとんでもない話で、私は１回だけこの図書館で、よそから借りないで話をしたら、司書さんが大変多くの本の中から探して、別室の普段は開いていないところにある、戦前の本を出してきてくれて私は非常に重宝したことがあります。そういうことから古い本なら捨てて良いなんてとんでもないことだと思います。戦争中の本も貴重になることがある。

（事務局）　小布施の図書館も古い本をとても大切にして、置き場所に苦労しています。それから小布施町は、電算化の話も出ているのですが、まだ電算化されていない、非常に遅れている図書館になってしまっています。そういう面も含めて、利用の幅も広げたい、交流や安らぎの場でありたいという思いがあります。しかし全部実現、一度に出来るわけではないので、出来るところから、皆の力でやっていこうという、一歩を踏み出そうとしています。

また、子ども図書館だけで本当にいいんだろうか、もっと利用したい方もいっぱいいるのではないか、その辺でご意見どうでしょうか。

（参加者）　引越してきて三年の新参ものです。ただ、今ちょうど２人目の子どもが生まれて、２年たったものですから、まだ勤めているのですが、育児休業を頂いていて、その間にいろんな町の方に参加させて頂いています。図書館のあり方検討会の方も町報で見て、公募という形で参加でき、こういう場に参加できることも感謝しております。

先程、子ども図書館の話がでたのですが、子ども図書館って、造れればいいと思うんですけれどなかなかそうはいかない。一般の図書館は、やはり、これだけ情報をたくさん必要とする方達がいる中で、必要な場だと思います。本というのも非常に１冊１冊が高価になってきていますし、幅の広い本が、それこそ日本は出版件数的に言えば、世界で１位なんです。それを全て網羅するということは不可能になっています。そういう中で情報弱者がでてきているのも事実です。情報を受け取る能力や、技術というものに非常に人によって幅がでてきている中で、図書館という情報を誰もが無料でアクセスできる場というのが身近にあるということが、これほどに必要とされている時代はないと思うのです。

お家にコンピュータが無くても、図書館に行けばコンピュータで世界の情報にアクセスできる。あるいは、そこから世界中の図書館から本をその窓口まで取り寄せて頂くことというのが、図書館間では相互貸借という制度がありますからできるのです。もちろん日本中の公立の図書館へ、小布施町に貸して下さいと言えば、そちらの図書館が良いですよと言って下されば送って頂くことが出来るのです。そのためにも、１万２千人の町かもしれないけれど、１万２千人の町だから隣の市に行ってやればいいじゃないかということではなくて、１

万２千人の町でも東京に居るのと同じように情報にはアクセスできるという権利を、与える場というのが図書館だというふうに私は思っています。

また、子どもの資料のことがありましたけれど、今、子どもの資料と、ヤングアダルトといわれる小学校高学年から中高生にかけての子ども達が読む本というものの垣根が非常に低くなり、接している部分が多くなってきています。だから、子どもの本をここに置けばいい、中学生の本をここに置けばいい、一般の本はここに置けばいいというので場所を分断していくっていうことは、情報の分断を生むということだと私は思うのです。ですから、一つの町立の図書館というところに、ワンフロアの中にある程度の住み分けは必要でも、いろいろな資料がある、様々な情報があるということが、やはり大切だと思います。

ただ、私も小さな子どもが居ますので、例えば、郷土資料を調べている方のすぐ隣に子どもの絵本があって、そこで子どもに読み聞かせることはできません。やはり、２歳とか３歳の子どもは、なかなか静かに絵本を読んでくれないのです。例えば自動車が出て来るとブーという大きな声を出すし、ボールの絵が出て来ればボーって叫ぶのです。だから、そういう時に、その声が響かない造りの、静かに本をみたい、資料を使ってレポートや論文を書いている方とのゾーニング、住み分けができることが非常に大切だと思います。

ただ、一昔前のように学習室をきちんと壁で区切って、受験勉強をする子はここにいれば静かだし、冷暖房はきくしという、環境を作る必要はないと思います。資料を見ながら論文を作る人、あるいは、パソコンで、インターネットの情報にアクセスしつつそれを文字資料で確認しながらレポートを作る人という、その姿を、例えば図書館に絵本を見に来た小学生が見ることでスゴイって思う、その驚きっていうのがあることが必要だと思うし、中高生のお兄さん達が勉強する姿を小学生が見たときに素敵だなって思うことというのが必要だと思うので、そういう中身づくりを是非していただきたいと思います。

（参加者）　今のお話の中の焦点をもう一度お願いしたいのですが。

（参加者）　全ての年代層の人が来て、様々な情報にアクセスできるように、いろんな情報を揃えた場であって欲しいということです。

（参加者）　具体的にどうやったらできるのですか。

（事務局）　今、これからいろんなことを具体的に、ということなので。

今、子ども図書館についての意見や、小布施らしさってというのは必要ないというお話がありました。図書館は、全ての年代層が、という基本構想案なのですが、子育て支援ということも出てきていて、今子どもたちには大変活用されている図書館なのですが、新しい図書館では子どもの成長に関われる場としたらどういうことができるかという、ご意見を頂きたいと思いますが。

（参加者）　ある場をどういう場にするかではなく、その場を活かして、どういう子ども

を育てるかを考えた方が良いと思います。この図書館を、上手くやるなら、町民のひとづくり、で、ひとづくりが出来れば町づくりが出来るというような、コンセプトをつくり上げていくと良いと思うのですが。やはり、もし小布施の財政からいって、あまり欲張るのはちょっと心配な部分もありますが、もし実現するとすれば、この場所を通じて、「どこの市町村よりも小布施の子は本を、一番読む」というふうに、そういう子どもをつくるというふうになってもらえれば良いと思います。

特に、子ども教室のことが書いてありますが、うちも子ども教室に行ってますので、連携なのか拠点をここにもってくるのかということも、これから意見交換の場で考えていかなくてはいけないと思うのですが、小布施町では人間的に、とても素晴らしい人間をつくるという、目的を盛り込んでもらえると良いのかなと思います。

（参加者）　子どもといっても、小さい子から、さっき言ったヤングアダルトの部分からありますが、今の小学校や中学校にも図書館はあると思うのですが、それの実情はどうなっていますか。その兼ね合いを考えれば、違ってくるのではないでしょうか。学校の図書館は、どんな本が置いてあるのかよく分かりませんけれども、ちょっとその辺がわかれば教えて下さい。

（参加者）　関連で、今、小学校、中学校、図書館は開放されてないんでしょうか。

（事務局）　一般には、開放されていません。

（参加者）　これを開放する方向にはないのですか。

（事務局）　それも含めてまた…。学校図書館は、読書指導を段階をおっておこなっています。近隣では PTA の方々に開放するとか、そんなことも聞こえてきていますが、小布施町はまだこれからの課題になります。なお、学校の図書館の様子を実際に見る機会を明後日、図書館で企画しています。興味のある方は、この機会にご参加ください。

（参加者）　幼稚園と保育園の、絵本の貸出しとかはどうなっていますか。

（事務局）　また、今度確認しておきます。

（参加者）　今、図書館をみていると、保護者と来ている人、非常に多いですよね。幼稚園とか保育園の本とか絵本、童話なのかは、わからないけれど、どんな感じなのかな。そういうことも全部おさめて、考えていかなくてはいけないような。

（事務局）　あの、学校と町立図書館と同じ本が二重にあっても、もったいないというようなお話ですか。

（参加者）　いいえ、二重でも有意義な本なら別にあってもいいですよ。ただ、図書館、変な話だけど、なんて言うかな、涼しいしね。私は図書館、よく行く方だと思うのだけれど、どうも見ていて目的が若干違うのではと感じます。特にその、お子さんを持ったお母さん方とか、それで、ついでに聞きたいのですが、例え

ば、日曜日とかに出てこられればね…。

（事務局）　日曜は親子が多いです。一緒に本読んだりしていただく利用は良いのですけど、子どもを図書館に置いていってしまうのは困るなと思います。出来れば、一緒に本を読む環境になればと思います。

（参加者）　学校は開放してないというし、親子で使うという部分はあるかもしれない。けれど…まあ良いです。

（参加者）　町の図書館のおはなしの会の方に携わって、まだ数年ですけれども、やらせて頂いてます。月に１回、おはなしの会を幼稚園から低学年のお子さん対象なのですが、約１時間弱おこなっています。その他に、エプロンおばさんという、代々伝わっている子どもが図書館にきて読んでと言ったら、子どもの希望に応じて読むというボランティアもしています。でもなかなか、私達の力不足もあるのでしょうが、子どもは集まりにくいです。しかし、何よりも今の図書館の中には、おはなしの会をする場所がないのです。今は、保健センターの２階をお借りしたり、役場の学習室を借りてやらせて頂いてるのですが、図書館の中に、そういう部屋が是非欲しい、それがおはなしの会のメンバーの願いです。

それと、今、子ども達が、図書館に来ても、ビデオも沢山ありますので、ビデオの方にも行きます。それで、一度ビデオ見始めたら、大分長い時間見ているように思えて、学校の懇談会でも、図書館で本ではなくてビデオみていて困るねという話も聞こえてきました。ビデオを置いてはいけないというのではないのですが、見放題というのは、困るなと思います。ある程度、時間制限なり、月にこの日は、ビデオが観られる日だよとか、ちょっと規制を加えて欲しいと思います。

私たちはこれから、心を豊かにできる、子どもさんに夢とか、希望を、たくさん蓄えられるような本を、いい本を、おはなしできるように、自分達も勉強して、これからボランティアしていきたいと思っています。

（事務局）　実際に県内でも家庭の日、第３日曜日は、スイッチを切って本と触れ合ったり親子の日をという取り組みをしております。小布施町は具体的にそこまではおこなっていませんが、学校としては、県教委からそういう指導もあります。

今、ボランティアの方から具体的な話しがあり、是非新しい図書館にはそんな読み聞かせが出来る施設、部屋が欲しいと、具体的な点で発言していただけますでしょうか。

また、ボランティアとしての関わりとして、図書館を大きな舞台として展開していただきたいということも基本構想の中に盛り込んであります。ご意見やこういうものが必要でという意見も、是非お聞かせ下さい。

（参加者）　今の、ご意見の関係で生活者的な観点からなのですが、私は今分館長をやっていて、公民館の活動との連携を今年１年やらせて頂いています。公民館活動

の中で、自治会の人達と公民館活動の連携を如何に深めていくかというところと、より所として、公民館の方へお伺いして、写真の利用等をさせて頂いてまいますが、そういう中で例えば図書とか関連するものを繋げていただいているかということは、よく見えていないのですが、最初の話の中に、公民館活動と図書館活動についての連携のお話を、お伺いしたのですが、その具体的なテーマが、この報告書の中にはあまり見えないと感じます。私は、今 63 になり、ビジネスは一旦離れて、地区との連携の仕事といいますか、自治会のより所となるものを、私たちがこれからどんどん高齢化していく中で、公民館活動と十分連携できるような、そういう入り口が見えていないのは不安です。

最初の議題は非常に理解できるし、そういうものを作っていく説明が非常に必要だと思います。やっぱり、行政の方々は、やっていると言いますが、受け皿の方は、そうは言っても窓口があれば役場の方に直接いくより、やはりもっと身近なところから行きたいと思います。そういう意味で図書館と公民館がもっと充実、連携して今の映像の関係なんていうのは非常に重要な問題として何人かの意見に出ましたが、情報のアクセスさえ、まずとれれば、かなりこう、世の中生きていけるチャンスになると思います。そういう、見開きの図書館と公民館活動、そういった観点で、もう一度、こういう検討の方を、再確認していただけたらと思います。

（参加者）　関連で、４つの柱の中での交流の場という項目がありますが、一般の図書館ということから、私は、これは公民館の仕事を盗っていると思います。今までも公民館、創造館、六次産業など様々な建物が交流の場というふうに造られたわけですが、そういうように、図書館もせっかくお金を使って造っても、新しい方に向いてしまって、前のものをおろそかにしてしまう、私はそれの方が心配です。先程の話ですと、これは最後の箱物だというふうに私は受け取ったわけですが、私は最後の箱物もそんなにはりきって公民館や他の方までおかすようなことはしないで、もっと今までのやったことを充実させる方向で、もっと地味なものにと私は考えます。よそから、どんどん見学に押し寄せるような図書館はいらないとそういう発表をさせていただきます。

（参加者）　先程から希望と、やって欲しいことが飲み込めないほど沢山の要望がでていて、そういうこと本当にやるなら学校の裏一杯、建物造らないとできない形になりかねないのですが、それを含めて可能性があるのは、中学の前の十方庵ですね。次回の競売、５千万円からスタートです。現在５社が、名乗りをあげているようです。例えば１億で町が購入したとしても、内装直すのに１億いれば、充分図書館が、その他機能、今いわれている機能全部できると思います。エレベーターもついています。そういう中でも場所を検討していただきたいと思います。

（事務局）　十方庵は検討してくる過程の中では、提案があり検討させていただいた過程があります。今のところ、検討委員会の方々にも、ひとつひとつ提案や検討させていただいてきた過程がありますが、一番有効なのは旧幼稚園舎の跡地ということで、絞り込んきていただいております。で、そこを教育委員会の方、また定例教育委員会の中で検討していただいて、それから予算に設定するという段階となっています。確かに、敷地が狭い中でというようなことがあって、本当に広い土地が手に入ればいい訳ですが、今の町の状況では選べない状況にあります。

（参加者）　その時は２億ぐらいしていたのですね。

（事務局）　はい、そうですね。

（参加者）　今、ランキングがスタートの５千万からですから、充分価値があると思いますが。

（事務局）　５千万あれば、その辺は…。

ほかに情報とか映像に関してのご意見は。

（参加者）　今日の会議は唖然としていまして、どういって良いのかわからないのですが、気になったことを最初に伺います。先ほど普通の図書館といういい方がありましたが、普通というのがどういうものか物差が解らないということと、公民館の連携の話がでましたが、私は映像の仕事をしていますけれど、この小さい町でも公民館で情報を収集して、それを図書館で集約して何かメッセージを出す。そういうような活動があっても良いと思いますし、みんなの拠り所が公民館から図書館になって、つながっていくのもすごく良いのではと思います。

今ここで提案といってもすぐに出ないのですけれど、あの図書館も、公民館も、くだけていったところ同じレベルで皆さんが使っていくべきものだとは思っています。そこで何かをこう、目的を、図書館だからこう、公民館だからこうだとかいうとこれは情報が寸断されてしまうので、私はその中間のグレーゾーンが、たくさん町の中にあっていいと思います。それが、この情報はどのように町にもっていこうかとか、自治会で消化してなんとかなるとか、繋げていけばいい良いのではと思います。

あとは、図書館で観るビデオですが、質にもよると思うのですが、私はビデオを作っているもので、観てほしいなと思っています。表現者はかなり夢を表現しているつもりなので、それは誰かに語るということが大事であって、図書館がそういう場所であってくれれば、良いのではないかと思います。まあ、ビデオばっかり見続けていてというところは、図書館でよく見てあげなくてはいけないかなと思います。

逆に言えばですね、お子さんと図書館に涼みに来るのは良いと思います。どこか大きなデパートのゲーセンへ行って、子どもをぽんと置いて買い物してい

くお母さんよりは健全ではないかと思います。何年も何年もプロセスをやっていくと、本でもちょっと読むかなぁとかビデオでも観るかなぁとか、くだらないねとか、面白いねとかそういう会話が生まれてくるのではと思います。そういう前向きに、持たせる為にはかなりのプロセスが必要だと思いますが、そういう感じでいいのではないかと思います。

あの映像のことを聞かれたのですが映像のことは、すぐ考えが固まらないので、いろんなことやったらどうだということがあるのですが…、今答えを出すのはちょっと難しいです。

（参加者）　もう一回提案させていただきます。良い意見がでていると思いますけれども、それをある程度聞かせていただいてきて集約して、必要なときに皆さんにプロポーザルする。それが、理念、ソフトとかハード化してそれを持ってきてもっと論議する、という方が次の交換会が、すごく有効だと考えます。

例えば図書館に行ったら世界中の花の情報が全部インターネットで出てくる。そういうものを提供できる図書館。憩いも図書館に。本当に小さな 1800 ㎡に、どうせ造るなら、という話は結構、話の中で煮詰まっている段階なので、できれば４～５人、５～６人の人が集まってワークショップみたいな形をしてですね、みんなで知恵を出し合って、こういうのはどうでしょうなど、ある程度ハードは出していただく。それについて次の段階として、いろいろな意見を聞くという方が建設的かと思います。次回またこうして同じ作業、こうやって説明する会より、もう少し進むなら是非やりたいという方がいれば、手をあげていただいて、叩き台を作って、そういうものを皆さんにプロポーザルしていただく方法はいかがでしょうか。

（参加者）　今の意見に大賛成です。というのは、私も普段は農業やっていて、図書館のことなんか何にも考えなくて、どんなデータもないです。ましてや他の図書館を見に行ったことも他の近隣の図書館や最近の図書館のデータもないですので、急に図書館の在り方をどうする、これ図書館でいいかと言われても、ちょっと困るような面があります。やはり良い図書館を造るには、その人たちにデータを研究して貰い、それで一応形をつくっていただいて、それについて討論していった方が良いのではないかと思います。皆さんの意見を聞くのは聞くので良いのですけれども、そういう委員会みたいのを作る必要はあると思います。また、最初からの話に戻るというのは、先ほどからずっと感じていたので、できればその方向が良いのではないかと賛成です。

（参加者）　関連で、私はそう言う意味で、あり方検討委員会があり、ここに随分練られてここに出ていると思います。ここの辺りからどうして早く進まないのかと私は思っているのですが、先ほどから、具体的に出ていますが、また改めて募集をして、組わけしてやるのではなく、今まで時間をかけてやっているわけですか

ら、今までの方が具体的になるのではないかと私は思います。

（参加者）　図書館のあり方検討会は、図書館という基本に立って考えています。今回は、交流の場だとか、老人と子どもの場だとか、情報発信とか、かなり違う総合的にされた意見も出ています。なので、そういう人たちも交じって５～６人の、７～８人でブレーンストーミングをおこなって、その理念がハード化した形で皆さんに提示されると意見も出やすいのではと考えます。そういう形で次のステップに入るというのが良いのかなと思っております。

（事務局）　確認させていただきたいのですが、今日のような形は、ここまでにして、委員会というか、そういう５～６人のメンバーで集約するという段階にきているということですか。

（参加者）　基本は、そのワーキンググループという皆さんが５～６人手をあげて立っていただいて、そこでかなり集中的にブレーンストーミング、意見を出し合って、いろんな人の意見を聞いて、それで叩き台を作る。ソフトの方の理念とぶつかり合いながら、ハードというおおまかな設計図を出して、ということをその皆さんに次の週位に出していただいて、それに対してここはもっと大きくしたいとか、ここは私たちはこうしたいとか、ここは二階がいいとか、この理念を活かすには、ここはこうした方がいいとか、ステップアップした建設的意見を論じていただく。そういう意見交流会に次回はさせていただてもいいかなと思います。

あり方に関しても行政中心ではなく、将来図書館というのはNPOで運営すれば良いとか、それぐらいの発想転換、それぐらいの提案をしていただくぐらいのワーキンググループを作る。そういうことを今やっていただければ、とてもありがたいと思っていますけれども。

（参加者）　検討委員会というのは、これは次回、何に使うのですか？

（参加者）　本当に真剣に討論されて図書館の基本的なことに対しては、充分に審議されていますから、それをハードの設計図という形にして、次回に図書館プラス基本構想案の情報発信化、憩いの場などの交わりの場を、含めたハードを出すということを次のステップにしていったほうが建設的な意見が出てくると思います。それを繰り返してステップアップしていけばどうかと私は考えています。実は、すばらしいものをやっていただいたというふうに私は評価しますし、皆さんも評価されているだろうと思っています。

（事務局）　検討委員会で出されたものを、さらに具体化していくためのグループを、ワーキンググループを立ち上げたらどうかというご意見がでています。よろしいでしょうか。そうしていただいて、具体化に一歩踏み込んでいくということでよろしいでしょうか？

では、具体化に向けて、グループを立ち上げるにあたって、手をあげていた

だきたく思いますが…。

（参加者）　今この場で提案いただいて、私がという人もいると思うのですが、あり方検討委員会の方々は会長を始め、10 人以上いらっしゃいますし、その方々から２人ぐらいとすれば、皆さんの意見の調整も必要でしょうから、明日か明後日位までに話し合って２人出して貰って、自分がやりたいという人も後で事務局に申し出たり、この場で即答は難しいと思うので、委員会をつくるということだけ承認していただいて、もちろんこの場で手をあげても良いのですが、ちょっと精選する時間が必要だと思います。

（参加者）　次回には叩き台というものを出していただいて、それに対して皆で話した方が意見交換になるので、ただ、あまり時間がかかると、皆さん過干渉になるのでこう進めたいということはプリントで知らせていただいて、それから事務局は参加していただいて、役場の方々も、教育委員会の方も加わっていただくという形はどうでしょうか。

（事務局）　よろしいでしょうか。とりあえず、整理していきたいと思いますが、委員会をつくるという事に対してはご理解いただけますでしょうか。今日のような会をやっていたのでは、何回やっても埒があかないということでよろしいですか。賛成していただけるようでしたら、拍手でお願いしたいのですが。

―（拍手）―

次回のために一歩を踏み出す意味で委員会を作っていくという事でご賛成いただきました。よろしくお願いいたします。

また、この場で手をあげたいという方いらっしゃいましたら、お願いいたします。今、４名の方に手をあげていただきました。あり方検討会の方からは、早めに返答していただくということでよろしいでしょうか。

（参加者）　私もあり方検討会の一員でございます。2 人位ということならば、正副の会長ということで入っていただければと提案いたします。

（事務局）　ありがとうございます。正副という声がありますけれど、いかがでしょうか。

（参加者）　そういう表向きの会長、副会長でなしに、本当にやりたいという人が多分おられるので、表向きということでなしに。本当に、かなり、時間詰めてブレーンストーミングというのはしますので、正副でない方でも検討して出していただいたほうが良いと思いますけれども。

（参加者）　叩き台を整理するだけなのでしょう？

（事務局）　具体化に向けて８月 30 日には次の議案になるかと思います。

（参加者）　私たちも、１年間かけて研究しまして、研究した内容を「図書館のあり方報告書」という形で報告をさせていただいています。それで今、基本構想案が、庁内のプロジェクトで出ています。あり方検討会の報告書や、その前の図書館づくりの会というのがありまして、その会でも充分研究しまして、それは２年間

にわたって研究してきたのですね。その２年間に渡って研究した内容を、大事にして、あり方検討会でも報告書として提案させていただきました。それに基づいて、庁内で、新しい町立図書館の基本構想案というのをだして、これが叩き台だと思うのです。これが作られて、それでこの叩き台の中にこれから、８月の第５週あたりにプロポーザル審査員委嘱というのを行っていくという計画がはいっているのですね。そういう計画が入っている中で、もう一度その検討会を立ち上げるという意味が私たちには理解できないものですから、大変困惑しているところなのです。

（参加者）　もう一回言わせて下さい。図書館あり方検討会というのは、図書館という概念があって、交流とか、情報発信の場とかですね、老人と子どもとのふれあいの場とかですね、そういうものを含めて、まだソフトの部分、理念です。この中で私が言っている、ワーキンググループとは、それをある程度になった理念、つまりソフトの部分をハード化して、次回の意見交換会で皆さんに提案していただきたい。これだけの内容をとても協議できないと言われていますが、できないのではなく、これぐらいでできるのではないかという位の、そこには建築の先生に入っていただいても良いと思いますけれども、ハードの部分を含めたものを皆さんに提案して見てもらいたい。それで、議論のステップアップしていきましょう。そうすると非常に具体化してくるということなんです。

（参加者）　お聞きしたいのですが、あり方検討委員の人がここら辺にいて…、貴方は執行部側なんですか。ちょっと良くわからないのですが。

あり方検討委員は、どういう委員なのですか。あり方検討委員はこの人達で…そちらの方は何の委員でしたか。ここら辺は何の委員なんですか。執行部。関係ないのですか。どこまで執行部なのですか。

（参加者）　いえ、委員などは、ここには関係ないです。ただ、ここに来ただけで。

（参加者）　事務局以外は意見交換会に、出てきた個人なのですか。

（事務局）　そうです。住民の方です。事務局は今ここに着席しています。今、事務局だけでは…。

（参加者）　先程、ここで決めなくてもいいんじゃないかという話もでたので、今日全員決めなくても、少し猶予をおいたらどうですか。

今ここで全員決めること自体が…先程の意見を尊重してもらっても良いのではないですか。

（事務局）　是非、具体化するためには整理してもらう必要があるので、お力を貸していただくということで、申し訳ありません段取り悪くて。

（参加者）　手をあげたので…、私の理解としては、あり方検討会のものがあって、私は町民としてまだ短いけれど、その前からずっとこういう話がありました。

その話を進めるために、今日、皆さんとお話していることを、ある程度まと

めて、そこで形にして、今度またこういう場所に出して、そういうキャッチボールをする役目だと私は思ったのですけれども。ここで、話してもまとまらないので、１時間２時間話したものを、もう一回、委員会？なんというかわからないですけれど、私が手をあげたその委員会で、まとめて、今度こういう形で、こういうのはどうですかと、ここでまた投げて、そこでまた皆で揉んで、で持って帰ってというキャッチボールの役目だと思ったので私は手をあげました。そう理解してるんですけれども。

（参加者）：　わかりました。あり方検討委員会の有志の方で、図書館サポート・おぶせというものをつくっていまして、そこで 24 日の日、金曜日、小中学校の図書館の見学ツアーというのを企画しましたので、その時に、皆さんに相談しまして後で報告したいと思います。

（参加者）　先ほど伺ったハードの部分をはっきりさせてほしいという、具体的に、何をどうするかということをもう一度お聞きしたいのですが。

（参加者）　ハードとは、実際こういう概念ができたというソフトの部分にたいして、ハードの部分は設計図という形になると思います、基本的には。

（参加者）　そうすると、そういった具体的な平面図がでるということですか。

（参加者）　ある程度は、この部分は、図書館の部分、この部分は交流の部分、ここは情報発信の部分。お互い分けた方がいいのか、２階建てがいいのか、後の北斎ホールとはどうやって繋ぐのかとかですね。こういうものはどうでしょうか、そうするとこれだけの、考慮することはありますが、それを満足させることができるでしょうか、というぐらいの提案はしていただきたいなと考えています。

（参加者）　やはり、平面図とかそういったものが必要になるとが感じたものでお聞きしたんですが、実際問題として、素人が平面図をつくる、ここに何を置いて、こうしてくということは、専門的な知識がないと難しいむずかしいと、思うのですが…。

（参加者）　ですから建築関係の先生ですとか、そういうアドバイザーに入ってもらって、ディスカッションされても良いのではないでしょうか。何もなくて、ただハードソースだけを論ずる時期は、過ぎたのかな、実際はもうハードの部分、設計図はどんどん出てきて、それについて、皆さんがいろんな意見をディスカッションしてステップアップしていく時が来ているように思っています。

（参加者）　先ほどお話があった、閉鎖型がいいのか、開放型がいいのか上下が良いのか、そういうことは少しずつ触れていかないとまとまっていかないとと思います。

（参加者）　そういったものを、具体的な平面図をいただいて検討すると。

（参加者）　要件として、1,800 ㎡。予算は 3 億 5 千万で、イニシャルコストをどこまで入れるのか、できあがるまでのコストがどこへ入るのかということまで…。

（事務局）　1,800 ㎡は敷地で、建物は約 1000 ㎡です。

（参加者）　では 1000 ㎡の中でどれくらい必要か。それくらいのことは考えられると思いますし。

（参加者）　東京理科大学まちづくり研究所で勉強させていただいていて、皆さんにはすごくお世話になっていて、私も何か役に立てることがないかと思ってこの会に参加して、ちょっと唖然としてしまったのですけれど、私もここに来る前にいろいろ見させてもらいました。ここ何年も掛けてここまでやってきていて、何でできないのかということを、１回、その課題を見直したことはあるのかなということ。例えばですが、何で自分たちの案を言っているのに通らないかということを考えたことがあるのかどうか。例えば言ってる人を間違えていないか。例えば、子どもが使えるようなかっこいい家具を誰がデザインしてくれるんだろうと考えたときに、今のところ役場に全部それを向けて言っているのですけど、役場の人はそれは専門じゃない気がします。役場の人にかっこいい家具をデザインしてくれって言っても無理だと思います。だったらそれができる人を組織の中に入れていけるように用意しなきゃいけないのではないか。あるいはボランティアの中心になれる人を会議の中に入れなかったら、ボランティアの拠点になるということも実現できないのではないか。今日聞いていた議論の７割は今までと同じ議論をしてる気がします。読ませてもらった中に書いてあります。

でもそれが実現しない状況なので、なんでそれが実現しないか、それは多分それを担う人がまだ用意されていないからではないかと。だったら、まずその体制を作るっていうのが、今ワーキンググループっていうのがそうなのかなという印象はあるのですけれど、でも結局その中で構成されているのは今のメンバーを細分化しただけという気がします。その中で話し合ったって結局、今まで積み上げてきた議論と同じになる気がします。

では誰に入ってもらったら一番効果的かっていうことを話し合った方が私は早い気がします。いきなり先生、私の先生なんですけれど、先生に入ってもらったからって、できるかというと、まあ、先生のアイデアでできるかもしれませんけど、みなさんのアイデアではなくなる恐れがありますよね。それをわかった上で、そういうことを運んでほしいと思います。

（参加者）　関連して、もし時間がゆっくりとれるなら、こういうところに館長になる予定の人をぜひ入れて私たちの希望とかを酌んでもらって、実際に関わっていってもらいたいと思うのですが、難しいと思うのですが、またそういうことも検討していただけると、実現可能かなと思います。

（参加者）　館長になる人を選ぶというのもワーキンググループの中の一つの仕事と考えていただいた方がいいかと思います。

（事務局）　館長について申し上げますと第 1 回目の意見交換会で申し上げたのですが、

本来ですと、この基本構想なり図書館の新しい建設計画当初から関わっていただくべきだと思います。それで公募していくということなのですが、ちょっと手落ちで予算の関係がございまして、９月 20 日の町報で公募し、11 月から関わっていただくというような形になろうかと思います。ちょっと遅れていて申し訳ございません。

ワーキンググループの構成についてもまた十分配慮し立ち上げていくと、そういうことでご理解いただきたいと思います。では、次回の８月 30 日までの間に次の提案をしていただくということになりますけれども、よろしくお願いいたします。

なお、日程変更について一つお願いいたします。４回目を９月５日に予定しておりましたが未定ということでご了解いただきたいと思います。８月 30 日までには確定して連絡させていただきたいと思います。

次回は８月 30 日、７時ということでお願いいたします。大変長時間に渡りまして、みなさんありがとうございました。図書館の見学会の方にもどうぞご参加いただきたいと思います。